

訃 報 — 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

及川 渉 殿(建設/総合技術監理) 令和 2 年 4 月 22 日逝去 66 歳

佐崎 雅史 殿(建設/総合技術監理) 令和 2 年 6 月 17 日逝去 73 歳

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

ワクチンが完成するまでは流行が繰り返すと専門家が力説しています。確かに報道で目にする件の棒グラフでは第 2 波の減衰傾向は明らかなものの、この冬に向けて再燃することを危惧し種々の対応策が論じられています。このように私たちを取り巻く環境は With コロナの社会構造に向けて徐々に変化いや適応していくなか、騒動勃発からおよそ半年経過した現在、その最終形に漸近しているのか？ いや更に大きな変革が必要なのか？ まだまだ暗中模索の段階ではないでしょうか。そう言った意味で、GoTo キャンペーン等々は国内最大級の社会実験と揶揄する人もいるようです(妙に納得)。

あの世界最大のパンデミックであった『スペイン風邪』は全世界の 3 分の 1 の人が感染し、およそ 1 億人もの死者が出たとの記録があります。一方、第一次世界大戦の収束に大きく影響したとも言われ、悪いことばかりではありません。このコロナ禍で企業や組織は色んな意味で打撃を受けたと思いますが、結果的に働き方改革の促進材となったり、組織の無駄な部分が顕在化され生産性向上への足掛かりになったり、このようなメリットを最大限に評価するポジティブな姿勢を大事にしたいと考えます。

さて、このコンサルタンツ北海道第 152 号ですが、上述したようにコロナ禍で各研究委員会や地方委員会の活動が停滞することで、報告文や投稿文が激減して過去で一番薄い冊子となるのではとの危惧を抱いておりました。今回は改めて『会員のひろば』への投稿を ML でお知らせしたところ、なんと 5 編を掲載することができました。なにもページが多ければ良いと言う訳ではありませんが、やはり本会の活動の証しであり活性度の指標ともみなせるものではないでしょうか。

基本的に本誌『会員のひろば』は会員の皆さまからの投稿や寄稿で成り立っています。読者の皆さまからの投稿を広い間口でお待ちしております。些細な情報でも気兼ねなく発信できる場として活用して頂ければ有り難く存じます。

第 152 号編集担当 知本 康男